取材・文／コムデザイン

## ■今回の災害訓練の企画の背景と目的は

今回の災害訓練は、当院の外科医師でDMATメンバーの田中晴祥先生が、前勤務病院からDMATの一員として東日本大震災直後に仙台に派遣され、被災の現場で医療支援活動しながら見聞きし感じた経験を基に田中先生自身が企画しました。

テーマは年毎に変わりますが、今回は『院内の被害が大きかった』ということでの訓練です。災害の時は、病院機能自体が喪失する可能性があり、その時に素早く立ち直って対応し、診療機能を復旧することや維持することができるか、今まさに診療している患者さんの安全が守れるか、院内にいる職員を含めて多くの人々の安全を図れるかなど、被災状況を把握して情報として取りまとめて的確な対応を行える訓練が必要と強く感じ、災害訓練をよりリアリティーのある内容で行うこととして企画しました。

訓練の実施には、訓練参加者自身も何が起るか分らないという緊張感を持って行うということが大事で、『訓練は本番のように、災害の時は訓練のように活動しましょう』と言われますが、今回の訓練では本番さながらに本当に災害が起きたように状況を想定して行いました。

## ■災害訓練の具体的な目的と内容は

訓練は、1月29日に実施しましたが、病院としては通常通り24時間動いています。実際に手術や分娩も行われ、必要な検査を行い、入院中の患者さんへの対応を普段通り行っています。それらを担う医師や看護師やコメディカルなどの各担当を除き、患者さんたちに驚きや迷惑がおよばないように気配りをして全部門・部署参加で行いました。

当院には2012年に改訂された災害時対応のマニュアルと、揺れが起ったり緊急地震速報が出た時に直ちに対応すべきことを記したアクションカードが作られています。今回の訓練は、このマニュアルとアクションカードをベースに、情報・連絡の中枢を担う災害対策本部機能の役割分担などを補足して実施しました。

訓練の目的は、マニュアルの検証とか、アクションカードの検証です。また災害時の対応の確認です。忘れていたことを再度思い出したり、いつ起きてもどう動けば良いのかを繰り返して体得していくことが大事です。

行った内容は、例えば受け入れ先の病棟には手術室の状況を前もって知らせてなかったり、CTなどの機器が使用可能かどうか不明な状況での対応を行うなどの部署間の連携を訓練しました。たとえ訓練であっても混乱することを経験し、本番の時にパニックが起きないように連携が取れるようにすることが一つの目的です。また、それぞれの動きに対して一つひとつ検証していくことで、災害に対する対応能力を上げていくことも目的です。実際の医療機器を使って、例えば人工呼吸器や麻酔器などのコンセントを抜く模擬の電源断線を行い、臨場感を出して対応の訓練をしました。赤色のコンセントは自家発電に繋がっていますが、そのコンセントがどこにあるのかを普段は意識していないので、常日頃から意識付けもできるように訓練を行いました。例え手術中でも、突然何か起きた時にどう行動するかを考えながら診療に取り組むこともテーマです。

## ■災害訓練から得たことと今後への取り組み

今回は本物の地震を想定した具体的な訓練を行い、訓練内容を一つひとつ評価して多くの問題点を洗い出せたことが大きかったと思っています。今後はその問題点に対して手立てを考え、マニュアルの改訂や訓練の方法を見直し、実際に被災した時に十分な対応能力を身に付けられるよう、更なる努力を積み重ねたいと思っています。

私たちは、災害対応の分野でもマニュアルの改訂や訓練を積み重ねることで前進していきます。患者さんや地域の住民の皆さんに安心感を持っていただけるように、災害はいつかは起るのだということを考えて災害拠点病院として訓練を繰り返して行うことが大事だと思っています。こういった設備があるから絶対安心ですという訳ではありません。スタッフが訓練を通して災害時に適切に対応できる力を身につけていけば、実際に被災した時でも適切に対処できる集団になれるということを信じて活動を続けていきたいと思っています。

左／エレベータが使えず、階段で担送。

右／手術中の訓練は臨場感たっぷりで緊張ムード。

下／訓練後は反省会を行い、今後の改善策を検討。

## TV放映されました!!

災害訓練の当日はCBCテレビの取材が入りました。名古屋記念病院のFacebookにCBCテレビのニュース番組で紹介された様子が掲載されてます。ホームページからご覧ください。

http://www.hospy.or.jp/kinen/